



GOOD NEWS と きの こ え

War Cry

9月号

福音版
2021
September
No.2822

二〇二二年 九月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

天から来る恵み

加藤直子

残暑の続く九月ですが、実りの秋を迎えるのは楽しみです。私は、ある時、知人に連れられて、梨農家の直売所へ行きました。そこで試食した梨がとてもおいしくて、私が感動を伝えると、農家の方が説明してくださいました。その年は日照が良く、甘味が増したのですが、雨が少なく、実はあまり大きくならなかったそうです。そして言われたことは、「人間がどんなに水をやっても、天から来るものにはかなわないです。」



聖書は、この大きなものを神という存在だと教えています。「しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありませ

ない、と語る農家の方の表情は、さすがしく、自然の力に対する敗北感ではなく、人間の力を超えた大きなものを見上げるような崇敬の念を、私は感じました。皆様は、何かに人間の力を超えた大きなものを感じるでしょうか。聖書は、この大きなものを神という存在だと教えています。「しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありませ

お与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書3章16節)

神がお与えになった独り子とはイエス・キリストのことです。キリストは、人々を愛し、神について教え、神の御計画に従い、人間の罪の身代わりとして十字架にかかられました。このキリストの犠牲によって、神は私たちの罪を赦してくださったのです。さらに、神は、キリストを復活させ、死に打ち勝つ希望を与えてくださいました。それは、神が私たち人間を愛しておられるからです。

聖書は、もうひとつの天から来る恵みについて、教えています。「神は、その独り子

私自身は、十代後半に、過去の過ちを悔い、救いを求めていた時、救世軍で、キリストの救いのメッセー

除かれました。キリストを信じ、歩んでいた二十代後半に、身近な人との突然の死別という悲しみを経験し、なぜこのようなことに？と葛藤が続きました。しかし、再び、救世軍で、キリストの復活のメッセー

農家の方々は、天からの恵みを大地の実りとして私たちのもとへ届けてくださいます。救世軍も、目に見えない天からの恵みを、様々な活動を通して、皆様にお届けしたいと願っております。このために、毎年秋には感謝祭募金をおこなって、皆様からの貴いご支援をいただいています。今年もご協力をよろしくお願いたします。

(救世軍士官(伝道者))



「わがたましいよ。主をほめたたえよ。
私のうちにあるすべてのものよ。
聖なる御名をほめたたえよ。
わがたましいよ。主をほめたたえよ。
主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
主は、あなたのすべての咎を赦し、
あなたのすべての病をいやし、
あなたのいのちを穴から贖い、
あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
あなたの一生を良いもので満たされる。
あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。」

(聖書・詩篇103篇1～5節)

救世軍本営職員 **花崎 拳** さん

(水戸キリストの教会 教会員)

父の転勤に伴い海外で長く生活した花崎さん。家族皆がイエス様と出会い救われたイギリスでの子ども時代、イエス様と一緒に生きるという確信を得たアメリカでの青年時代……。これまでの歩み、イエス様を信じて生きる幸いをお聞きしました。

引越し続きの子ども時代。イエス様を信じるまでの歩みは――

私は大阪で、キリスト教とは無縁の家庭に生まれました。日本の普通の家庭と言いますか、クリスマスにはプレゼントを交換して、新年には神社に行き、お寺も行き、という環境です。父はサラリーマンで、とにかく転勤が多く、国内でも度々引越しをし、私が小学一年生の冬にはアメリカのニュージャージー州への転勤、引越しとなりました。アメリカで現地の学校に通うようになった時、兄のクラスに日本人の子が一人いて、その子の家族が日本人教会に通っていたんです。ある日、「野外の礼拝があるって、バーベキューがあるから来ない？」と誘われたのがきっかけで家族で教会に行ったのが、クリスチャン、教会との初めての出会いでした。その後、教会にはクリスマスやイースター、子どものイベントなどの時に行く、という感じでした。

二年間住みました。その二年目の時、私たちが住んでいた郊外の町に、日本から牧師先生が来て教会を始めるとい話を、どこから聞き、なぜか(笑)家族で「一回行ってみようか」という話になったんです。その教会は全員で十人ほどの小さな集まりで、皆さん本当に親切にしてくださいました。そこで聖書の学びをしていくうちに、自然とイエス様のことを信じるようになり、私と兄と母が同時に受洗しクリスチャンになりました。そのころ、父はちょうどタイに転勤が決まり、準備のためタイに行っていたので、父と弟は三カ月後にタイの教会で洗礼を受けました。それが二〇〇三年で、家族みんなでクリスチャンになることができました。

のために、私の罪のため

に死んでくださって、永遠の命を与えてくださったというところが、とても素直に、自分の中にすんと入

アメリカでの高校時代、賛美を通し、イエス様と一緒に生きる生活へ

その後、二〇〇五年にアメリカに戻りました。受洗してクリスチャンとなったからも、生活がすぐ変えられていったわけではありませんでした。中学生、高校生

のころは信仰のアップダウンもあり、礼拝には行っていないも、イエス様との個人的な関係は本当の意味ではできていませんでした。アメリカでは、家族でラブラジョイピイスチャーチという日韓の教会に通っていました。私は教会の賛美チームで、ベースやギター演奏、賛美リードの奉仕をさせていただいていました。

そんなある日、礼拝で歌

人生の転機に、平安と希望を与えると

いう神様の御言葉信頼して

大学進学の時、専攻や志望校を迷っていた時期がありました。ある日、教会の祈禱会で祈っていた時、大

学見学で見た校舎と雲一つない青空の風景がぱっと浮かんできたんです。その時にもう一校、希望していた

ってきました。それで「イエス様を信じて生きていきたい」と純粹に思ったのが、クリスチャンになった時の経験でした。

い賛美をしている時に、自然と涙が流れてきて、本当に神様に触れられるという体験をしたのです。そして、日曜日の礼拝の時だけではなく、日々の生活も礼拝なんだということ、日々の中でイエス様と交わりをもつて一緒に生きていくんだということが、はつきりわかりました。高校三年生の時でした。その時に本当の意味で、イエス様と個人的に出会うことができ、そこから、イエス様との関係の積み重ねということを通して体験していくようになりました。

大学があったのですが、神様がビジョンを見せてくださった大学のほうに心が決まりました。そちらに通うことになりました。最初、音楽の教員になるためのコースを専攻して勉強を始めましたが、一年目の途中で、本当に教

員の道でいいのかという疑問が出てきたんです。もし他に道があるなら示してくださいたいという思いで祈っていると、神様が御言葉をくださいました。エレミヤ書二九章一一節です。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

私はもともと何か人のためになる仕事をしたい、好きな音楽を使って人の役に立てたらと思っていました。その思いの中でこの御言葉が与えられ、祈り続けるうちに、音楽療法というものがあると知りました。そして

結婚への導き。父の闘病と死を通して、教えられた永遠の命の希望

大学卒業後、音楽療法士の資格を取得して、現地の幼稚園で働きました。音楽療法のエッセンスを取り入れながら音楽クラスの担当をしていました。二〇一六年の秋、幼稚園で働いて二年ほど経ち、私はずっとアメリカにいたつもりでしたところが、当時、日本に単身赴任し京都で働いていた父に、すい臓がんが見つ

て最終的に、大学二年目から別の大学で音楽療法の勉強をしようと思いましたが、無事に合格することができませんでした。

私は高校生の時に賛美のなかで神様と出会い、日々神様と交わりつながついてくという歩みがあったので、大学進学や転学についての決断の時にも、御言葉に基づいて、神様が与えてくださる道なら大丈夫だ、と信じて進んできました。新しい環境や場所に行くことはやはり勇気がいります。でも、本当に神様の御計画は将来と希望を与えてくださるものなので、どんな時も平安な思いで一步を踏み出すことができました。

た。父は最期の日々を通して、たくさん私に遺してくれました。一つは結婚のことです。私は二〇一九年に結婚したのですが、実はそのきっかけを父がつくってくれたのです。妻はクリスチャンチームに生まれ育ったクリスチャンで、アメリカにいる時からの知り合いでしたが、父が入院した時にお見舞いに来てくれました。その時父が彼女に、結婚について祈ってくれないかと言ったのです。私はもともと彼女に好意があり、父もなぜかそれを知っていて……(笑)。

妻は私の思いは全然知らなくて驚いたようですが、それから三日ほどお互いに祈りました。そして、お互いに心に平安があり、また、妻はそのしばらく前に、こういう人と結婚できたらと書き出していた希望に私が全部当てはまったらしいんです。それで、神様の導きを感じてお付き合いを始めることになり、父に報告に行きました。父はその時、もうあまり話せなかったのですが、親指をグーと立てて、にこーっと笑ってくれました。その報告をした三日後に、父は天に帰りました。ですから、妻との結婚は、父からの最後の贈り物

というか、父を通して神様が働いてくださったのだと心から感謝をしています。また、天国の希望と平安を教えられました。それまでもクリスチャンとして天国のことは信じて疑いませんでしたが、父の死を通して父はもうこの地上に生きていないけれど、天国で生きていてイエス様と一緒にいるという、その事実が確信に変わりました。いざれ自分もそこに行つてイエス様と顔を合わせてお会いし、そこに父もいる、という希望と平安、安心感が、父が亡くなってしばらくしてから与えられました。もちろん父の死はショックで、寂しくて、いてくれたらいいなと思うことは今もよくありますが、一方で、そういうすごい希望を神様は与えてくださいました。

父は希望に満ちて天国に行きました。多くの方がお見舞いに来てくださいますが、「本当に病人か、お前」と言われたり(笑)、お見舞いに来た人が笑顔になつて帰っていくという光景を見ました。本当に最後まで、イエス様を見上げて伝道して、生き抜いた人でした。もちろん体はしんどい痛みもあったと思いますが、その姿を見て、「私が弱い時にこそ、私は強いからです」という御言



2015年、家族で(左から本人、母、父、弟、兄)

新しい場所へ踏み出して――

二〇一九年十月に妻と結婚しました。結婚とともに茨城・水戸に移り、障がい者の就労支援の施設で働いていましたが、兄の紹介で救世軍と出会い、救世軍の新しい部門での働きのお話をいただいたのです。当時の職場からも引き留めていただき、進む道の選択が必要でした。どちらにするのか、なかなか答えは出ませんでした。お返事の期限も迫ってきた時、教会のメッセージで、旧約聖書・出エジプト記にある、イスラエルの民が荒野をさまよう中で神様が守り導いてくだ



音楽を通し神様に賛美を献げる

さつた、という場面が語られました。その時、自分にとっての新しいチャレンジである場所に神様の守りがあると感じ、最終的に、「わかりました、神様!」と踏み出す決心をしました。これからの期待し、今できることを一生懸命していきたいと思っています。私は聖書の詩篇一〇三篇一―五節(右頁上に記載)がとても好きで、良い時も悪い時もこの御言葉を心に留めています。私の人生を導いてくださっている神様に感謝いたします。

葉は本当だと思いましたが、自分が同じ状況になったらどう生きるだろうかと、すごいチャレンジも受けました。

創立者 ウィリアム・ブース 大將 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響下での支援、活動

●手指消毒器の提供

スリランカでは新型コロナウイルス感染症に26万人以上が感染し、3000人以上の死者が出ています。

スリランカの首都コロンボのフォート駅は同国最大のターミナル駅として繁華街の中心に位置していますが、このたび救世軍の提供により手指の自動消毒器が駅構内に設置されました。



●ワクチン接種の推進

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に関しては、真偽不明な情報によって困惑し、接種をためらっている人が多くいます。救世軍では士官 (伝道者) が率先してワクチン接種を受けることによって、健康に問題が起き



ないことを示し、地域社会の人々の不安を取り除きたいと願っています。写真は救世軍ガーナ軍国の士官です。

●オンラインの活用

救世軍アメリカ中央軍国では、全国大会をバーチャルイベントとして開催し、ロンドンからブライアン・ペドル大將夫妻がオンラインで聖書のメッセージを力強く語りました。コロナ禍

のために多くのイベントがキャンセルされる中、救世軍ではICT (情報通信技術) を使った礼拝・コンサート・イベントの配信に力を入れています。日本の救世軍では、公式YouTubeチャンネルで毎週聖書のメッセージを配信しています。9月5日 (日) には、「感謝と賛美のコンサート」をオンラインでおこなう予定です (案内下記)。どうぞ御視聴ください。

〈バングラデシュ〉フェアトレードプログラム「アザーズ」(「他者」の意)

救世軍はバングラデシュの首都ダッカの旧市街で売春に従事していた女性たちのために社会復帰支援センターを運営しています。そこでは女性たちに保健・衛生・人権・読み書き・栄養な

どの教育と就業のための訓練が提供されています。その中から選ばれた女性たちが、「アザーズ」の商品 (布製品、手芸品、小物など) の生産を委託され、収入を得て、自立した生活へと移行しています。「アザーズ」の商品はケニアでも作られており、ウェブサイトから購入できるほか、一部の商品が東京の救世軍出版供給部でも扱っています。

<https://www.tradeforhope.com/>



感謝と賛美のコンサート

9月5日(日)午後7時~



救世軍公式 YouTube ライブ配信

出演 RUAH WORSHIP (ルア・ワーシップ)



救世軍とは? What is The Salvation Army?

心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められました。日本での働きは1895 (明治28)年にイギリスから士官 (伝道者) の一行が来日して始まりました。正式に救世軍の活動を開始する集会が開かれた9月22日が、日本における救世軍の開設記念日となっています。

日本人で最初に救世軍士官となった山室軍平は、誰にでもわかりやすい言葉で説教や聖書解説をし、当時の労働者階級から政治・経済界の要人まで、多くの人々に感化を残しました。126周年を迎える日本の救世軍では現在、41の小隊 (教会にあたる) と、19の社会福祉施設、2つの病院 (ホスピス併設) を通して、働きを進めています。毎年9月には「感謝祭」として、これらの活動への支援を広く呼びかける募金活動を展開しています。*救世軍の各拠点ではCOVID-19感染予防策に最大限努力し活動しています。



救世軍公報 ときのごえ
発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日 (除く7月)
定価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円 (税込) クリスマス特集号 (12月1日号) / 1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス
編集人 山谷 真
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881 (代表)
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
 私の近くの救世軍を紹介してください。 キリスト教についてもっと知りたいです。
 『ときのごえ』の購読を申し込みます。 相談を希望します。